

美浜町教育委員会との話し合いのまとめ

2020年11月6日(金)16:00～

参加者 教育委員会:山本 敬 教育長/夏目 勉教育部長 /近藤淳広学校教育課長/竹内稔博指導主事
知 教 労:佐田京美/岩澤弘之/榊原賢也

1 正確な在校時間の記録について

委:客観的に把握・集計する手段について、新年度において予算措置をし、来年度途中から実施する予定である。どのような形のものになるかは未定。他市町の状況を参考に考えていく。

組:休憩時間が取れない日は、在校時間から7時間45分引くように強く指導してほしい。

委:休憩が取れるような体制や雰囲気作りができるように管理職に話していく。

組:子どもたちが校内にいる間は手待ち時間はあっても休憩時間は取れないのが実態。手待ち時間は勤務時間である。美浜町は勤務A(休憩が取れている)と勤務B(休憩は取れていない)に分けて計算できるシートになっているが、ほとんど勤務Aである。ありえない。休憩時間についての理解が職場の人に浸透していないのではないかと感じる。平成30年度に県が出した通知を校長に示してほしい。

委:校長には伝える。

2 改正「給特法」に伴い、法令に裏付けられた超過労働時間の上限指針(月45時間、年360時間)を遵守するための具体的な策について

組:法令に基づいた指針である以上、困難な面はあるが可能な限り取り組んでいかねばならない。予算のかからない取り組みもたくさんある。検討してほしい。

組:全ての小学校で部活を廃止してほしい。

委:小学校部活は来年度から廃止する。来年度から球技大会も中止する。

陸上大会は続ける。学校対抗とはいえ、記録会的な要素が強い。これは5月半ばに開催しているが、練習は4月半ばから始め5月の連休もあるので負担は少ないと思っている。

組:小学校の部活を廃止するのは英断である。

組:中学校部活では全ての学校で朝部活を中止してほしい。

委:県のガイドライン、町のガイドラインにそってやる。6・7月の朝部活は禁止している。学校によ

て朝部をやっているところもやってないところもある。時間がたてば朝部も無くなっていくのではないかと思う。他市町の状況も見ていく。

組:県のガイドラインでは朝部活は原則中止としている。部活そのものをすぐに無くせとは言わないが、朝部を無くすのはできる。常滑市ではすでに無くし、朝の余裕が生まれて好評を得ている。家庭でも朝ご飯をきちんと食べてから学校に送り出せている。ぜひ前向きに検討してもらいたい。

組:部活動は参加生徒も教師の顧問も自由を保障してほしい。

委:学校で決めていただきたいと思っている。

組:部活動を学校単位から地域の取り組みとなるように、何ヶ年計画を立ててほしい。将来的といった抽象的な対策は実現しない。試算を示すことも必要。町長の姿勢も大事だ。

委:部活動の実態を把握しながら、保護者、地域、生徒の考えを総合的に考えて判断していきたい。必要性は分かるが、地域一体型の部活動は費用がかかる問題である。この間、エアコンやGIGAスクール構想などで、町財政のなかでは教育費はかなり出費している。その状況で、費用のかかる対策をさらに追加要求するのは難しい。むしろ周りの市町の様子が大きく変わることが、それならば美浜町もと変えていく大きな材料になる。美浜町が先頭を切るのは現実として困難だ。

組:学校で取り組むものが多い中、朝部をなくすことで、保護者からは学校に多くを任せすぎている、教員からは外せるものもあるのだ、という意識改革の一端になる。

委:部活動に関する教員の意識は変わりつつある。

組:勤務時間前の業務、交通当番、あいさつ運動など朝の業務をやめてほしい。勤務時間を意識させることは大切だ。

委:あいさつ運動は町としては一斉にやっているが、学校には依頼してない。その他の早朝勤務は割振りに対応している。大きな負担にはなっていないと思っている。校長会で確認する。

組:全ての学校に留守番電話を設置してほしい。

委:今年度前半で完了した。

組:夏季休業中の閉庁期間を設定してほしい。

委:昨年度も3日間設定し、今年度は6日間設定した。8月11日～16日の6日間。

組:読書感想文・作品応募は学校で集約することのないようにしてほしい。審査員も教員から出さないようにしてほしい。

委:作品応募で教員の負担を減らしたいということは賛成する。集めたものを学校に取りに来てもらうようにした。作品の選定も教員が行なうことは無くした。各課で集めるものはできるだけカットし、各課にも負担してもらっている。意義のある応募作品については総合的に判断して行なっていく。

組:農協などだったら、子どもたちが自分で持つていくという方法も検討してほしい。

組:教職員会等任意団体が発行する冊子(「知多の友」「数学のリープ」「若あゆ日記」など)の編集作業に、本来の授業を補欠にしてまで出張させるのは本末転倒。出張させるのは校長の権限なのでやめさせてほしい。

委:他市町の意見・状況を見る。

組:公費で買っているものがあれば、公費からはずしてほしい。公費で買う＝編集作業が必要＝教員の負担、となる。本当に必要かどうか、市販のものでよくないか、など現場の声を聞いてほしい。

編集しているものではないが、健康手帳は必要ない。

組:中学校の職場体験学習をやめてほしい。

委:今年はコロナ禍で中止となったが、県が力を入れて推進しているのであれば受ける。

組:2020年4月から実施する予定だった「キャリア・パスポート」は教員の新たな業務負担にならないようにしてほしい。

委:具体的な話はまだ出ていない。現場の実態に応じてやっていけばよいと思っている。

組:学校訪問の簡略化をするように知教協に進言してほしい。

委:知多管内で十分検討していく必要はある。

今年度はコロナ禍でなかったが、美浜町では、各校半日2時間程度で視察した。こういう方法も

あるのだなという経験を踏まえて検討していく。

組:校務分掌の縮小や任務分担の工夫、知教研の縮小など各方面に進言してほしい。

委:それぞれの学校でだいぶ意識して精選してやっていると感じる。工夫を奨励することを校長会でも話していく。それでも小さな学校では〇〇主任をいくつも兼ねている。減らせられないものもある。

知教研の部会では確かに本当に必要なのかと疑問に思われる部会もある。

3 学校統廃合問題について

組:進捗状況はどのようになっているのか。

委:国の人口減少問題を受けて本町の人口ビジョン総合戦略をつくっている。一方公共施設等総合管理計画もつくっている。公共施設の中で一番多いのは学校施設。具体的な数字を示して住民に示して説明を始めた。統合については、小中学校再編実施計画を立てた。令和4年4月に河和南部小を河和小に統合し、将来的に小中一貫校で全ての小中学校を一つに統合する計画になっている。

今年の1月に河和南部小の保護者説明会をした。2月には住民説明会を予定していたが、コロナ禍で延期になった。その後ずっと延期されていたが、11月20日には河和南部小学区の住民対象の説明会をする。南部小学校の保護者、入学予定の保護者には直接文書を配布して声を聞く。

学校は防災、コミュニティの拠点でもあるので、地元区長はじめ、住民の声を広く聞きたい。

令和4年、河和南部小に入学してくるのは5人。そのうち女子は1人だけ。公教育でこのような状況はいけないと考える。車で10分も走れば隣の学校に行けるのであれば、5人の学年をつくらなくてもよい。

子どもたちの人口が減っているのに、早く手を打っていかなくてはならない。クラス替えもできないまま、ずっと同じ人間関係は良くないと考える。また、老朽化した学校をいくつも維持管理し続けていくには多額の予算がかかり、それならば1校新設の方が財政的にも負担が少なくなる。

組:あらゆる手立てを何度もして広報し、住民の納得が得られるようにしてほしい。

委:しっかりと住民のみなさんと向き合って進めて行く。

以上